

令和6年度全国学力調査の結果から、国語科「話すこと・聞くこと」に絞って、各学年、専科で課題分析を行い、目指す児童像を学年ごとに設定しながら授業改善策を考え、実践しています。

令和7年度全国学力調査の結果では、「話すこと・聞くこと」校内63.2% 東京都69.9% 全国66.3%という結果でした。結果や児童の実態を鑑みて、「話すこと・聞くこと」の指導の必要性をさらに感じています。昨年度の授業改善推進プランを見直し、「話すこと」「聞くこと」「その他」で整理して、授業改善推進プランを作成しています。

	課題分析をもとに目指す児童の姿	授業改善策
1 年	「話すこと」 ・相手や場に応じて、聞き取りやすい声の大きさや速さで話す力が身に付くようにする。 ・自分の思いや考えを相手に話すことはできる。適切な言葉を選んで分かりやすく話す力を伸ばす。	→「ことばのものさし」を活用して、自分が出している声の大きさを意識できるようにする。ペアで伝え合う、グループで話し合う、クラス全体の前で発表するなど、様々な「話す」場面を設定し、経験を重ねることができるようになる。 →分かりやすく説明することができるようになるように、話型や「はじめ・中・終わり」という話の構成の指導を積み重ねていく。語彙を増やすために、読書に親しみ、様々な言葉や表現の仕方に触れられるようにする。
	「聞くこと」 ・相手の話に関心を持ち、互いに認め合いながら、最後まで集中して聞くことができるようにする。	→主に2人組で「言葉のキャッチボール」と称して、自分の考えや感想を伝え合う機会を設定し、相手の話にうなずいたり、質問したりしながら聞くことを習慣化する。
2 年	「話すこと」 ・言いたいことを整理して話すことや順序立てて話すことを意識し、聞き手に伝わるように話す。 ・経験や実感をつなげて理由の説明をし、説得力のある話し方をする。	→話す前にメモを書いて話したり、発表原稿を用意して話したりする機会を各教科で増やす。(発表、インタビュー、対話などの場面で意図的に指導する。) →聞き方や話し方のよいモデルに触れ、その理解を深める。(映像資料、教師や友達の話し方・聞き方、自分自身の話し方・聞き方の動画などの活用)
	「聞くこと」 ・大事なことを捉えて話の内容を的確に聞き取って理解し、感想や質問を述べる。	→聞く目的を明確に示し、聞いて分かったことをメモしたり、まとめた文で表したりする活動を取り入れる。 →発表を聞いて質問することや聞いたことを活かす場面を多く作り、聞くことによって自分の考えを深められる体験を多く積めるようにする。(聞いて分かったことでクイズを作るなどの課題を設定するなど)
	「その他」 ・話すこと、聞くことのもとになる言葉の特徴や使い方(姿勢や発音、語彙・語句の量など)に対する理解を深める。	→音読や言葉遊びなどを通して、楽しい活動から、語彙を増やし、より良い話し方・聞き方を意識する機会を設ける。(なぞなぞやカルタ、早口言葉など)

3年	「話すこと」 ・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話す力を伸ばす。	→朝の会のスピーチなどの話す・聞く機会や日常的にグループでの話し合い活動を増やし、話し方や聞き方の知識・技能を高める。
	「聞くこと」 ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを捉えようとして聞く力を伸ばす。	→漢字と仮名を用いた言語文化に関心がもてるように、交ぜて書くことの利点に気づき、句読点を含めて読みやすい表記を考えて書けるような場面を設定する。
	「その他」 ・言葉の性質や役割、語句のまとまり、語彙の理解に意欲的に取り組むことができる。	→幅広く読書に親しみ、読書によって必要な知識や情報を得るようにするとともに、日常的に辞典や図鑑などの活用を図り、的確な表現に触れるようにする。 →日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書く場面を増やすことで、言葉の特徴に気づき、ローマ字入力でのタイピングスキルが身に付くようにする。
4年	「話すこと」 ・相手に伝わるように、声の大きさや適した言葉を選んだり、理由や具体例を挙げたりして話せるようにする。	→声の大きさや話す速さの手本を示す。(教師、児童) また、協働的な学びを増やしたり、日直の振り返りなど常時活動を大切にしたりと、意図的に話す機会をつくり、実際に話してみてもう一度かを振り返り、価値付けていく。
	「聞くこと」 ・話し手を見て、うなずきながら、話を最後まで聞くようにする。また、「詳しく聞こう」や「質問しよう」など一歩踏み込んで聞く姿勢を大切にする。	→共感的に聞いている人を褒め、否定せずに聞くよさについて共有する。「詳しく聞きたい所を探しながら聞くこと」や「必ず問いをもつこと」など話す前に投げかけ、聞いた後のことを想像させる。
	「その他」 ・考えや思いを伝えるなど、グループや学級全体で話し合う活動では、一人一人が積極的に話し合うようにしていく。	→相互指名や輪番制など話す人に偏りが出ない方法を提案して選ばせたり、自分たちで考えさせたりする。
5年	「話すこと」 ・自分の主張を明確にした上で、説得力がある資料を準備したり、構成を考えたりし、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力を伸ばす。	→朝の会のスピーチなどの話す機会や日常的にグループや学級全体での話し合い活動を増やし、話し方や聞き方の知識・技能を高める。
	「聞くこと」 ・話し手が伝えたいことを捉え、自分の考えをもち伝えられるようになる。また、自分の考えを自信をもって伝えられるようになる。	→45分の授業の中で、自分の考えを伝え、話し合う活動を意図的に設ける。 →意見、考えをつながられるように児童同士の相互指名を取り入れる。

	「その他」 ・語彙力を高めて、話したことを一度で理解できるようになる。	→タブレット端末や辞書を活用したり、漢字の宿題で熟語の意味調べを取り入れたりして、分からない言葉を自分で調べる習慣を育てる。
6 年	「話すこと」 ・自分の考えが聞き手に伝わるように、これまでの経験や知識をもとに事例を挙げ、根拠のある主張をすることができる。 ・相手意識をもち、場に応じた話し方ができるようにする。	→ペアやグループでの交流や日直のスピーチなどの話す機会を増やし、経験を積ませることで知識・技能を高める。 →発表メモを作ることで、自分の考えを整理して話すことができるようにする。
	「聞くこと」 ・話し手が伝えたいことを捉え、自分の考えと比べながら聞くことができる力を伸ばす。相手の話を肯定的に受け止めた上で、自分の考えを伝えられるようにする。	→共通点や相違点など、どのような観点で話を聞けばよいかを活動の始めに考えさせる。 発表のあとに、質問や感想を伝え合う場を設定し、相互の関わりをもてるようにする。
	「その他」 ・話の内容を理解し、次への見通しをもつことができるようにする。	→学習の流れの見通しをもたせる。板書も活用し、視覚的にも理解できるようにする。 →タブレット端末や辞書を活用して語彙を増やす。
専 科	「話すこと」 ・語彙力や表現力を高め、自分の思いや感じたことを的確に伝えられるようにする。	→表現の例を挙げたり、友達の見聞を紹介したりすることでいろいろな言葉や表現の仕方に触れ、語彙を増やしたり、表現の幅を広げたりできるようにする。
	「聞くこと」 ・話や説明を最後まで聞き、きちんと理解できる児童を育てる。	→話が終わってから質問をする学習規律を定着させる。話はできる限り簡潔にし、手順を視覚化したり、ICT機器を活用したりするなど、学習環境を工夫する。分かっていたらうなずくなどの意思表示ができるようにする。